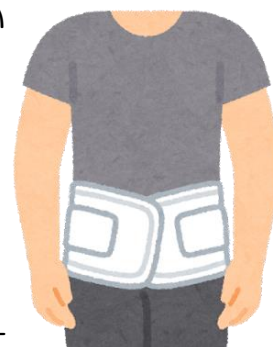




腰椎椎間板ヘルニアの新しい治療法 — 椎間板内酵素注入療法（ヘルニコア） —

腰椎椎間板ヘルニアは、ほとんどの患者様は手術なしで改善することが多い病気です。そのため、初期は、足の麻痺や排尿の障害などがなければ、ブロックや内服、理学療法などで痛みを和らげ、自然に良くなるのを待つのが最も合理的です。



しかし、なかには自然に良くならないものがあります。今までは、レーザーや手術によるヘルニア摘出などの治療が行われてきましたが、2018年4月から、椎間板を構成する「髄核」を融かすことで、脱出したヘルニアの圧を下げ痛みを和らげるヘルニコア（コンドリナーゼ）が開発され、医療現場での使用が許可されました。使用できるのは、内服、ブロックなど保存療法で十分な改善が得られない、後縦靭帯下脱出型のヘルニアで、レーザーと異なり保険で治療ができ、またヘルニア摘出術より手術費用も少なく済みます。即効性は少ないですが、身体への負担が少ないのが特徴です。保存療法と手術治療の中間的存在と考えることができます。

新規治療なので、脊椎外科の専門医がいる施設で行うことが義務付けられています。過去にヘルニコアによる治療を受けた方は、再度ヘルニコアの治療を受けることはできません。また、以下のような患者様は、ヘルニコア治療を受けることができない可能性があります。

- ・アレルギー体質の患者様
- ・腰椎すべり症、脊柱管狭窄症などヘルニア以外の脊椎疾患のある患者様
- ・骨粗鬆症、関節リウマチの患者様



整形外科・脊椎外科部長 富永 泰弘

富永医師の外来診察日

	月	火	水	木	金	土
午前			○		○	
午後	○					

ヘルニコア治療の説明、注意点など詳しい説明を希望される患者様は、整形外科 富永の診察をお受け下さい。

タッチレスボタン(エアータップ)搭載エレベーターを一部導入いたしました。

接触感染予防のため、新館のエレベーター（以下EV）を非接触操作のフジテック製最新モデルに入れ替え、手をかざして操作が出来るタッチレスボタン（エアータップ）式の新機種に変更いたしました。

新館に交換新設のEVは、行きたい階のボタンに手をかざすとセンサーが反応し、ボタンに直接手を触れずに操作することが可能です。※車いすの方用操作ボタン及び、「閉」ボタンは安全面への配慮から、タッチレスボタン（エアータップ）の機能は非対応です。通常通りボタン操作にて操作をお願い致します。使用後はEV前に設置の手指消毒液をご活用ください。



【タッチレスボタン（エアータップ）EV導入後のお声】

職員の声

- ・ボタンに直接接触せず操作が可能なので、感染症対策として安心感
- ・従来のEV時に非接触措置として設置していた綿棒を使用している人が減ったことで、補充する作業負担も軽減し、エコの観点からも廃棄物が減った
- ・非接触で操作が叶うことから、EV前に設置の綿棒を取って使用する手間が省け業務の負担軽減に助かっている
- ・患者様をケアしながら、自身の感染症対策としても意識をするのはとても大変な労だったその点が軽減されてより安心して勤務ができています
- ・階を間違えて操作した際に誤操作を消せるようになり、より利便性が高まった
- ・医療機関で従事することで高まってしまいう感染症に対する感染リスクのきっかけが減った

患者さまの声

- ・指でおさなくてもいいので、操作が楽になった
- ・操作する手に杖をもって利用しているが、非接触型でも特に問題がなく使えている
- ・非接触で操作ができるEVは近隣になく、初めて利用し感動した
- ・感染症に対する心配が減り、画期的で嬉しい
- ・非接触で操作が可能な箇所、接触しなければいけない箇所があり、分かりにくい
- ・非接触とわからず接触型として使用し続けていた

※ホームページ「新型コロナウイルス感染症に対する当院の取り組み」より抜粋

年末年始休診のお知らせ

	30 (木)	31 (金)	1/1 (土)	1/2 (日)	1/3 (月)	1/4 (火)
午前	●	休	休	休	休	●
午後	休	休	休	休	休	休

※急患の場合は随時対応いたします。045-371-2511にお電話ください。

発熱外来からのお知らせ

2021年12月31日と2022年1月3日の2日間行います。

○診療時間:11時~13時 ○受付/当日10時までに電話予約(045-371-2511)をいただいた方

編集後記／池住

年の瀬には、年末や年の暮れという意味があります。年の瀬の「瀬」には、川の浅い箇所、流れの急な場所という意味があります。船で通る際に急流や激流が行く手を阻む困難な場所を示しているのですが、この様子を「支払いがたまって困っている状態」や「支払いをすると食事や暖をすることができなくなる」ことになぞられているのが、語源と言われています。つまり単純に一年の末に近づいていると言うよりは、鬼気迫った状況を表す言葉が「年の瀬」のようです。年の瀬は、一般的には12月に入ると使われる言葉のようですが、中旬を過ぎたあたりからは特に、「年の瀬」の意味を実感される方も多いことから、12月15日頃からあいさつ文に「年の瀬」という言葉を入れる方が多いようです。1年間ありがとうございました。では皆さま良いお年をお迎えくださいませ。

地域医療連携室より

「よこつる通信」の誌面についてご意見・ご感想などございましたら、正面玄関から入り右側の地域医療連携室または院内設置のご意見箱、ホームページのお問い合わせよりお聞かせください。皆さまからのお声を心よりお待ちしております。